

---

---

サチュロ<sup>®</sup>錠 100mgを  
服用される患者さんへ

---

---



# サチュロ<sup>®</sup>錠とは

サチュロ<sup>®</sup>錠は「多剤耐性肺結核」の治療に使われるお薬です。

## ▶▶ 多剤耐性肺結核とは

いろいろな結核治療薬が効かなくなった結核菌を「多剤耐性結核菌」といい、この菌が引き起こす肺結核を「多剤耐性肺結核」といいます。

多剤耐性肺結核とは、少なくともイソニアジドとリファンピシンという、2つの抗結核薬が効かなくなった肺結核のことを言います。この2つの薬が効かなくなると、治療がたいへん難しくなり、治療期間も長びきます。

一般的に多剤耐性肺結核の治療には、イソニアジドとリファンピシン以外の効果の期待できる抗結核薬4剤以上を服用します。

参考書籍：四元 秀毅, 山岸 文雄：医療者のための結核の知識；医学書院

## ▶▶ 製剤写真



## ▶▶ サチュロ<sup>®</sup>錠の保管の仕方

- 光、高温、湿気を避け、PTPシートから錠剤を取り出さずに保管し、取り出した後はすぐに飲んでください。
- お子さんの手の届かないところに保管してください。

## サチュロ<sup>®</sup>錠の服用を始める前の注意点

次のような患者さんは、サチュロ<sup>®</sup>錠を使えない可能性がありますので、必ず医師に相談してください。

- 心臓の病気がある方、特に「QT延長」<sup>キューティー</sup>(最終ページを参照)がある方。
- QT延長を起こしやすい方(心不全や不整脈などの心臓病がある方・家族にQT延長がある方など)。
- QT延長を起こすことが知られているお薬を飲んでいる方(最終ページを参照)。

ほかのお薬を飲まれている方は、  
医師または薬剤師に伝えてください。

- サチュロ<sup>®</sup>錠と一緒に飲むと、サチュロ<sup>®</sup>錠の効果が落ちたり、副作用が起こりやすくなったりするお薬(リファブチン・エファビレンツ等)がありますので、確認してもらってください。

また、以前にサチュロ<sup>®</sup>錠に含まれている成分に対して、過敏な反応を経験したことがある方はサチュロ<sup>®</sup>錠を服用できません。



## サチュロ<sup>®</sup>錠の飲み方

サチュロ<sup>®</sup>錠は、治療を確実に達成するために  
必ず医師の指示通りに飲んでください。

### ▶▶ サチュロ<sup>®</sup>錠の飲み方

#### 最初の2週間(14回分):

サチュロ<sup>®</sup>錠4錠(400mg)を1日1回、食事の直後に、コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲みます。

#### 3週以降:

サチュロ<sup>®</sup>錠2錠(200mg)を週に3回、食事の直後に、コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲みます。

3週目の1回目の服用は最初の2週間の最後に服用した日から、48時間以上あけます。3週目の2回目以降も同様に、次の服用までに、必ず48時間以上あけます。

3週目以降の服用日は医師と相談し、毎週同じ曜日の同じ時間帯(例えば、毎週月曜日、水曜日、金曜日の朝食の直後)に飲むことを推奨しています。

※サチュロ<sup>®</sup>錠を飲む際は、必ず他の抗結核薬と併用します。

### ▶▶ サチュロ<sup>®</sup>錠を飲み忘れた時

最初の2週(14回分)の服用期間中に飲み忘れに気付いたときは、速やかに医師または薬剤師に連絡し、指示に従って服用してください。

3週以降の服用期間中に飲み忘れに気付いたときは、次の食事の直後に服用し、その後は、48時間以上の間隔をあけながら、週3回の服用を再開してください。

## サチュロ<sup>®</sup>錠を飲んでいる期間の留意点

- サチュロ<sup>®</sup>錠を飲むときは、患者さんご本人から採取した結核菌に対して感受性(効果)があることを確認できた結核治療薬3剤以上と一緒に飲みます。
- サチュロ<sup>®</sup>錠の標準的な服用期間は6ヵ月間です。ただし、医師が必要と判断した場合は6ヵ月をこえて飲み続けることがあります。
- 飲み忘れると耐性菌(薬が効かない菌)が発生することがあり、サチュロ<sup>®</sup>錠の治療効果がなくなりますので、医師の指示に従ってしっかり飲みましょう。

## サチュロ<sup>®</sup>錠の服用中にみられる主な副作用

サチュロ<sup>®</sup>錠の服用中に、次のような副作用があらわれた場合は医師に相談してください。

- **QT延長(最終ページを参照)**

サチュロ<sup>®</sup>錠の服用中は、定期的に心電図検査を行って、QT延長などの異常が起きていないかチェックしますが、自覚症状(胸部不快感、動機、めまい)を感じたら、すぐに医師に伝えてください。

- **肝機能障害**

肝機能障害を早期発見するために、定期的に血液検査を行います。検査値の異常以外にも、吐き気や嘔吐、腹痛、発熱、だるさ、かゆみ、疲労感、食欲不振、便が白っぽくなる、尿の色が濃くなる、皮膚の色が黄色っぽくなる、白目が黄色っぽくなるなどの症状は肝機能障害のサインの可能性がありますので、そのような症状がみられたらすぐに医師に連絡してください。

- このほかに、ざ瘡(ざそう)、吐き気、関節痛、頭痛、嘔吐などの副作用も報告されています。

